

安芸高田市学力向上戦略

安芸高田市の児童生徒に
確かな学力を身に付けさせるために

平成28年3月

(平成29年3月改定)

安芸高田市教育委員会

はじめに

アメリカの大学教授の予測によると、「今後10～20年程度で、アメリカの総雇用者の約47%の仕事が自動化されるリスクが高い。」また、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」とされています。この予測はアメリカに限ったことではありません。厳しく変化の激しい時代を迎えている我が国においても、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高いとされています。そうした変化の中にあって、これまでと同じ教育を続けているだけでは、これからの時代に通用する力を子供たちに育むことはできません。

こうした社会の情勢をふまえ、広島県教育委員会は平成26年12月、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定しました。これまでの知識ベースの学びに加え、各教科で習得した知識やスキルを活用し、答えのない問題から最善解を創造する「課題発見・解決学習」や、体験を通して違いに気づき、多様性を受容する中でグローバルマインドの涵養や実践的なコミュニケーション力の向上を図る「異文化間協働活動」といった「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」を重視した取組をすすめるとの方向性を示しました。

こうした動向を踏まえ、安芸高田市教育委員会では、新しい時代にあっても本市の児童生徒が広島県内でトップレベルの学力を身に付けることができるよう、家庭・地域・学校が連携し、取組を進めるための指針として「安芸高田市学力向上戦略」を策定しました。学校現場においては、本戦略を踏まえた学力向上の取組を組織的に進めていただきたいと思います。また、保護者・地域の皆様には、それぞれの役割を踏まえていただき、「安芸高田協育」をともに進めていただくことを願っています。そして「オール安芸高田」の精神で、第2次安芸高田市教育振興基本計画に掲げる基本理念「郷土（ふるさと）を想い 夢と志に向けて ともに学び続ける人づくり」の具現化を着実に推進していきますので、引き続き関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成28年3月

安芸高田市教育委員会 教育長 永井初男

もくじ

第1章 学力向上戦略の策定にあたって	
1 策定の背景	1
2 実施期間と目標指標	3
3 構想図	7
第2章 安芸高田市の現状と課題	
1 学力の現状と課題	8
2 学力を支える生活等の現状と課題	15
第3章 今後取り組む施策	
施策1 各種学力調査の活用	17
施策2 複数校の協働による授業づくり	18
施策3 ICTの活用	20
施策4 研修の充実	21
第4章 授業づくり	
1 安芸高田市授業づくりスローガン	22
2 授業デザイン	28
第5章 家庭・地域・学校の連携による協育	
1 家庭の役割	32
2 地域の役割	33
3 学校の役割	34
参考文献	35

第1章 学力向上戦略の策定にあたって

1 策定の背景

国・県・市の計画等を踏まえ、「安芸高田市学力向上戦略」を策定し、児童生徒の確かな学力の定着を推進していく。

〔第2期教育振興基本計画〕（平成25年6月14日閣議決定）

- 我が国に求められているもの
「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」
- 今後10年間を通じて目指すべき教育の姿
「義務教育終了までに自立して社会で生きていく基礎を育てる」
「社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てる」

〔広島版「学びの変革」アクション・プラン ―資質・能力の育成を目指した主体的な学びの充実―〕（平成26年12月広島県教育委員会）

- 新しい教育の方向性
「これまでの『知識ベースの学び』に加え、『資質・能力の育成を目指した主体的な学び』を促す教育活動を積極的に推進する」
- 平成30年度全県展開
 - ・育成すべき資質・能力を身に付けた児童生徒の姿を具体化し、教職員や児童生徒間で共有する。
 - ・「課題発見・解決学習」の推進
 - ・異文化間協働活動の推進

〔次期学習指導要領改訂の方向性〕（平成29年3月文部科学省）

- 目指す教育の方向性
「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を通して、児童生徒に生きる力を育む」
「必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を、身に付けられるかを明確にし、社会との連携及び協働によりその実現を図る。」

〔第2次安芸高田市教育振興基本計画〕（平成27年4月安芸高田市教育委員会）

●確かな学力の向上

- 「安芸高田市学力向上戦略」を策定し、児童生徒が広島県内でトップレベルの学力を身に付けることができるよう、「オール安芸高田」で中長期的に取り組を進めます。
- 小中連携を核とした複数校の協働による研究推進体制を確立し、児童生徒の「主体的な学び」を促進します。
- 学習補助員、非常勤講師を学級の児童生徒数等の基準に基づき配置し、教育環境の充実に努めます。
- ICT支援員を配置し、学校におけるICT機器の活用を支援します。計画に基づき小中学校に導入されたICT機器を積極的に活用し、協働型・双方向型の授業への革新を図ります。

〔安芸高田市教育に関する大綱〕（平成28年2月安芸高田市）

●「安芸高田市学力向上戦略」の策定と推進

- 「安芸高田市学力向上戦略」で取り組む施策の柱は次の4点とし、小中学校教職員の協働による教育、9年間を見通した一貫性のある指導により、児童生徒の確かな学力の定着を図ります。
 - ① 各種学力調査の活用
 - ② ICTの活用
 - ③ 複数校の協働による授業づくり
 - ④ 研修の充実

グローバル化の進展などにより、社会・経済が、急激に変化しており、様々な課題がますます変化・複雑化・高度化する先行き不透明な社会へ進んでいくことが考えられる。

このような変化の激しい社会では、学校で学んだ知識や技能を定型的に適用して解ける問題は少なくなることが予測される。様々な問題に対して、協働的・創造的に問題解決に向かう「学び続ける力」が求められている。

2 実施期間と目標指標

(1) 目指す学力

教育の目標を達成する際に留意すべきこととして、学校教育法第30条第2項（第49条）に、次のように規定されている。

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

いわゆる「学力の三要素」であるが、このことを受け、本市が目指す学力を次の3つとする。

【目指す学力1】 基礎的な知識及び技能

【目指す学力2】 習得した知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等

【目指す学力3】 主体的に学習に取り組む態度

本市が目指す学力とは、ただ単にテストの点数を上げることを目的とするのではなく、上記の3つの【目指す学力1】～【目指す学力3】を含む、広い意味での学力である。

【目指す学力2】の「習得した知識及び技能を活用し」とは、いわゆるペーパーテスト上の「応用問題」を解くだけではなく、実生活において基礎・基本を活用し、課題解決する上で必要となる思考力・判断力・表現力等を含んだ力を意味している。

こうした学力を育成するための施策を実施し、児童生徒がこれからの社会生活で生き抜く力を身に付けさせる。

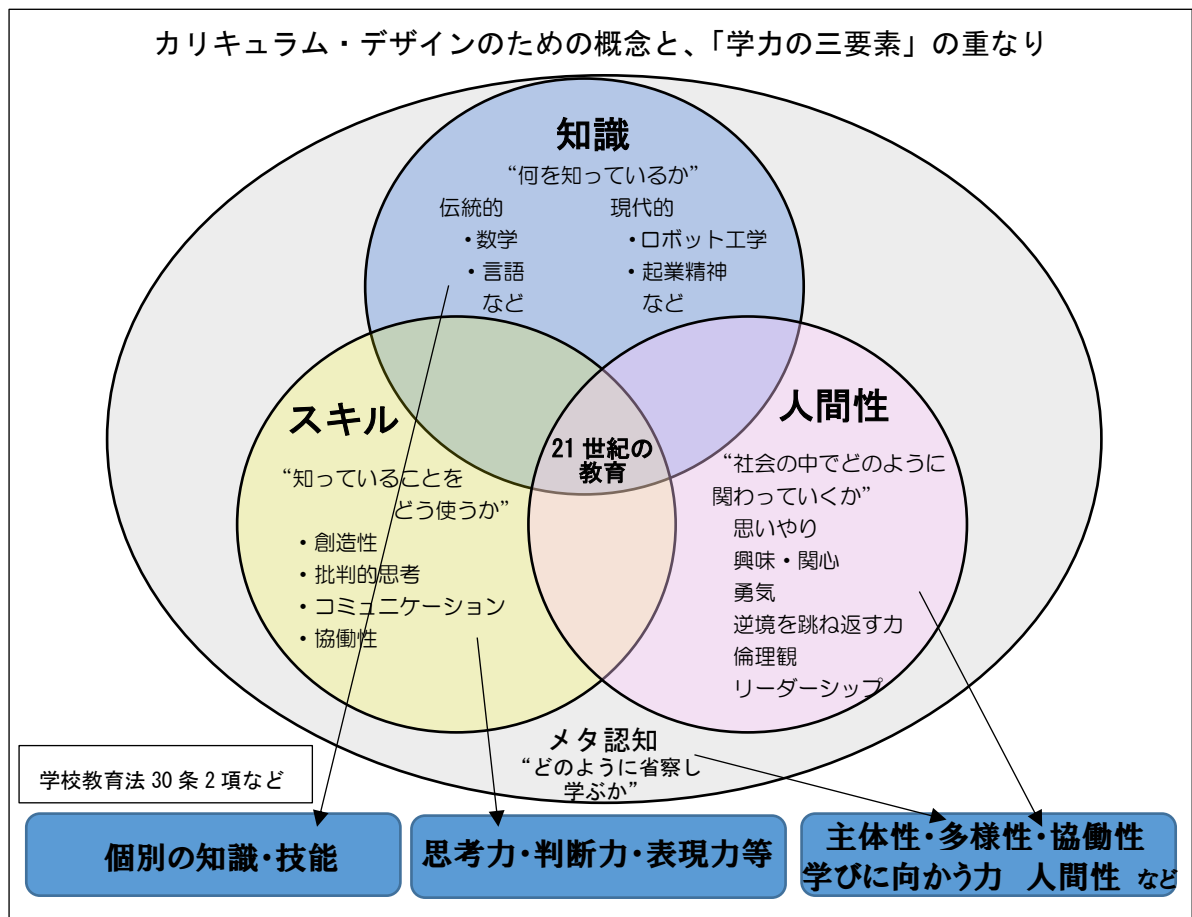
また、文部科学省中央教育審議会からは、平成27年8月教育課程企画特別部会より、次期学習指導要領の改訂に向けて基本的な方向性が「論点整理」としてまとめられた。各教科・領域等を貫く「育成すべき資質・能力」に基づい

て、コンテンツ（内容）ベースからコンピテンシー（資質・能力）ベースの転換を図る「指導要領の構造改革」を目指している。

「育成すべき資質・能力」については、次の3つの柱で整理されている。

- i 「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」
- ii 「知っていること・できることをどう使うか
（思考力・判断力・表現力等）」
- iii 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
（学びに向かう力、人間性等）」

「育成すべき資質・能力」の3つの柱と、学力の三要素である本市が目指す学力1～3までの関わりについて論点整理で下図のようにまとめられている。



こうした動向を踏まえ、本市においても、「育成すべき資質・能力」と目指す学力との関連を図りながら、学力向上に努める。

(2) 実施期間

本戦略の計画期間は、平成28年度から平成31年度までの4年間とする。

(3) 目標指標

第2次安芸高田市教育振興基本計画において「児童生徒に広島県内でトップレベルの学力を身に付けさせる」としていることから、各学力調査の通過率及び正答率において県平均を10ポイント以上上回ることを目標指標とする。

また、児童生徒が主体的に学習に取り組む態度を育み、将来にわたって社会を生き抜くことの出来る力を身に付ける必要があることから、児童生徒の質問紙調査のうち、「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」や「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」などの主体的な学びに係る質問に対する肯定的回答の割合を増やすことも目標指標とする。

目標指標	現状値 (平成27年度) (【】内は県平均比較)	目標値 (平成32年度)
広島県「基礎・基本」定着状況調査における平均通過率		
《 小学校 》 国語タイプⅠ	80.1%【+1.8】	県平均 + 10ポイント
国語タイプⅡ	57.0%【-1.3】	
算数タイプⅠ	81.0%【+2.5】	
算数タイプⅡ	47.5%【-1.9】	
理科タイプⅠ	70.4%【+0.7】	
理科タイプⅡ	61.1%【+6.1】	
《 中学校 》 国語タイプⅠ	74.5%【-1.2】	
国語タイプⅡ	64.4%【-0.4】	
数学タイプⅠ	74.4%【+0.2】	
数学タイプⅡ	57.3%【+0.1】	
英語タイプⅠ	69.6%【-0.6】	
英語タイプⅡ	58.5%【-2.1】	
理科タイプⅠ	53.9%【-2.9】	
理科タイプⅡ	48.8%【-0.3】	
全国学力学習状況調査における正答率		
《 小学校 》 国語A	72.6%【-1.2】	県平均 + 10ポイント
国語B	68.0%【-1.7】	
算数A	76.3%【-1.4】	
算数B	42.9%【-3.8】	
理科	61.8%【-1.4】	
《 中学校 》 国語A	78.2%【+1.7】	
国語B	68.3%【+1.3】	
数学A	64.4%【-0.2】	
数学B	42.5%【-0.2】	
理科	52.4%【+0.2】	

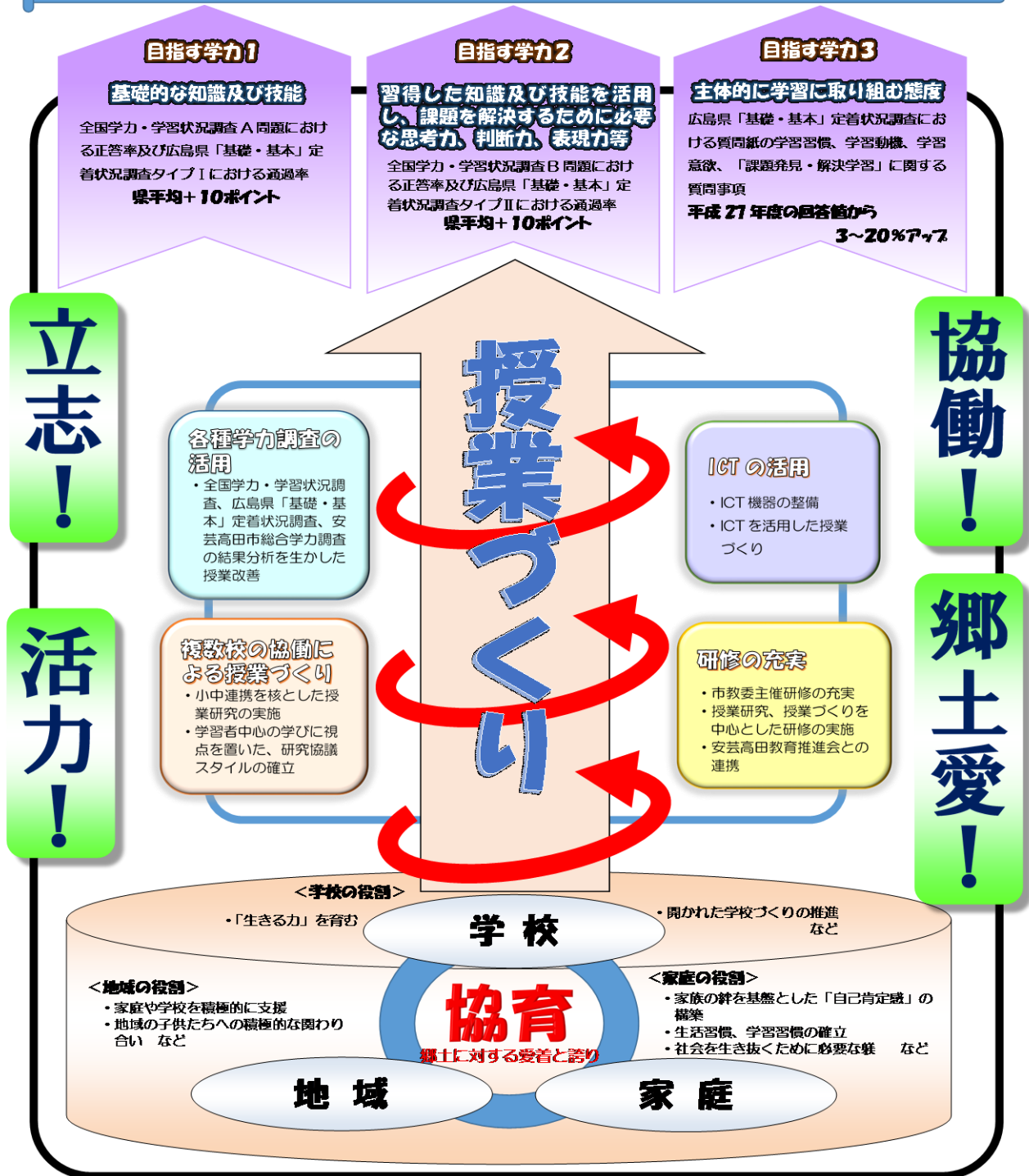
※県平均より10ポイント高い得点の場合、県内において1桁台に位置することから、県内トップレベルと考える。

目 標 指 標	現 状 値 (平成27年度) (【 】内は県平均比較)	目 標 値 (平成32年度)
<p>広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査における肯定的回答の割合</p> <p>●小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみたい』と思います。」 ・「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」 ・「授業では、自分の考えを積極的に伝えています。」 ・「授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取組んでいます。」 	<p>87.4%【+7.4】</p> <p>60.0%【+9.1】</p> <p>74.9%【+10.4】</p> <p>76.3%【+5.7】</p>	<p>90%</p> <p>65%</p> <p>80%</p> <p>80%</p>
<p>●中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみたい』と思います。」 ・「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」 ・「授業では、自分の考えを積極的に伝えています。」 ・「授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取組んでいます。」 	<p>70.2%【+3.7】</p> <p>41.3%【+3.3】</p> <p>56.4%【+0.2】</p> <p>65.8%【+3.1】</p>	<p>75%</p> <p>60%</p> <p>65%</p> <p>70%</p>

《 安芸高田市学力向上戦略 》

郷土を想い 夢と志に向けて
ともに学び続ける人づくり

目標：児童生徒に広島県内トップレベルの学力を身に付けさせる



第2章 安芸高田市の現状と課題

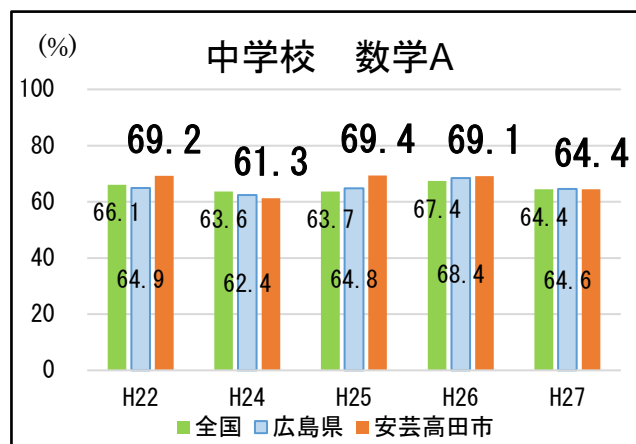
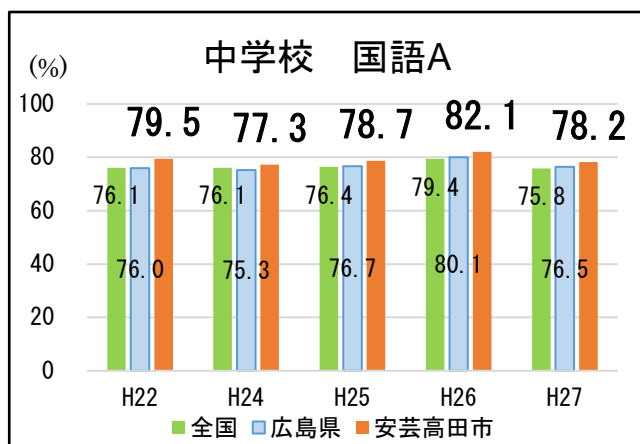
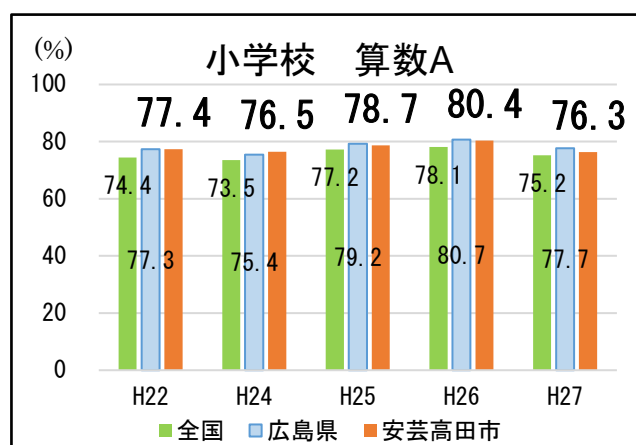
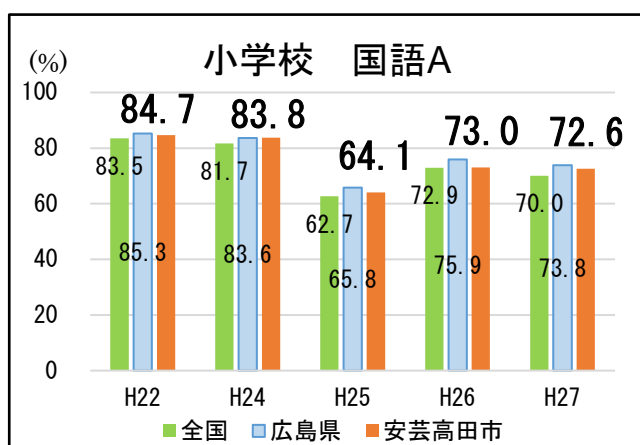
1 学力の現状と課題

(1) 【目指す学力1】基礎的な知識及び技能の習得

安芸高田市の児童生徒の【目指す学力1】については、全国学力・学習状況調査A問題や広島県「基礎・基本」定着状況調査タイプIの結果において、平均正答率や平均通過率が60%を超えていることから、概ね定着しているといえる。しかし、全国平均や広島県平均と比較すると、大きな差が見られず、基礎的な知識及び技能の習得において、県内トップの学力までには至っていない状況である。

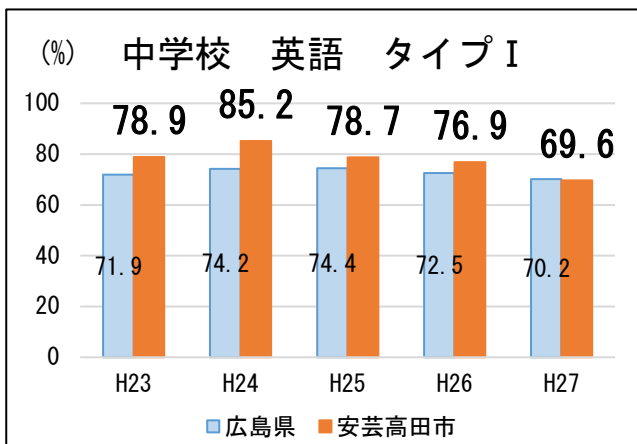
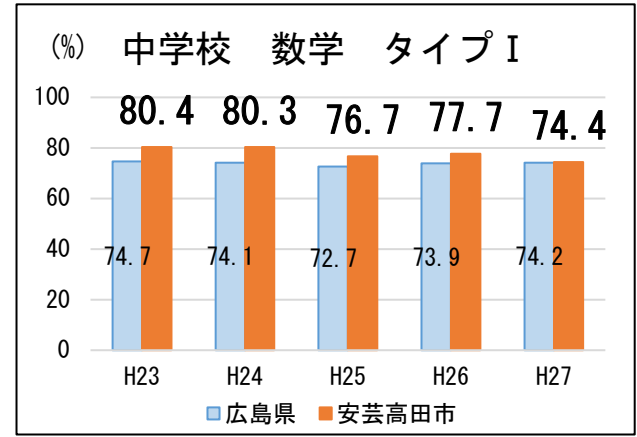
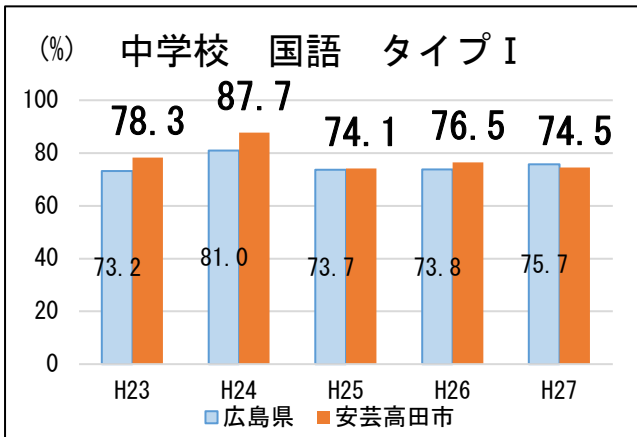
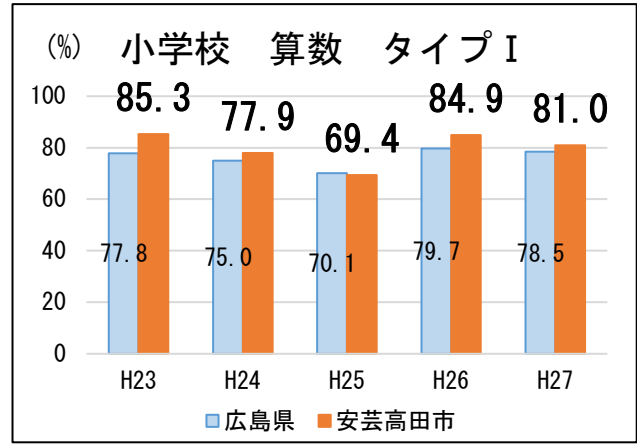
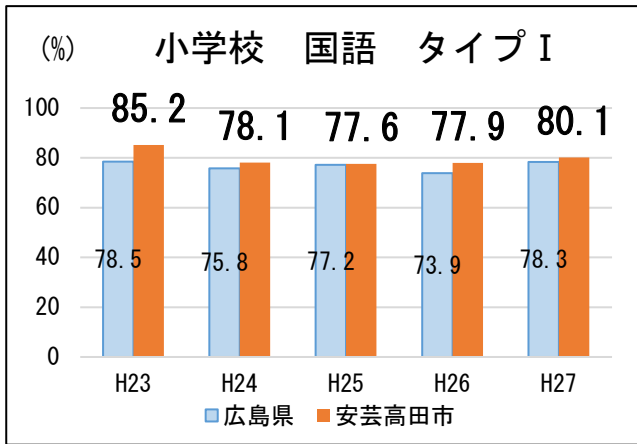
ア 全国学力・学習状況調査の結果推移 ※平成23年度は東日本大震災の影響により実施されていない

※A問題（主として「知識」に関する問題：身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など）



イ 広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果推移

※タイプⅠ（教科で身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼすなどの基礎的・基本的な内容）

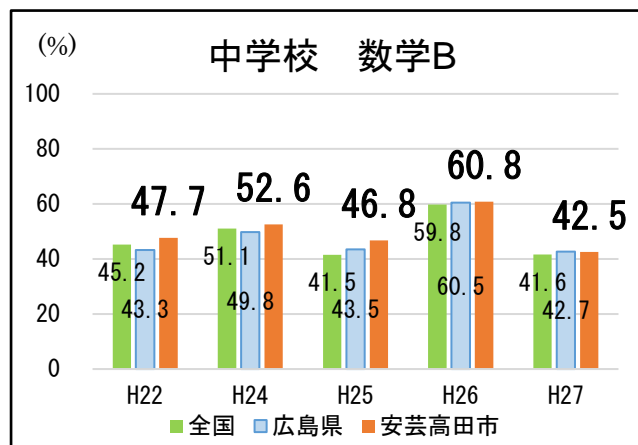
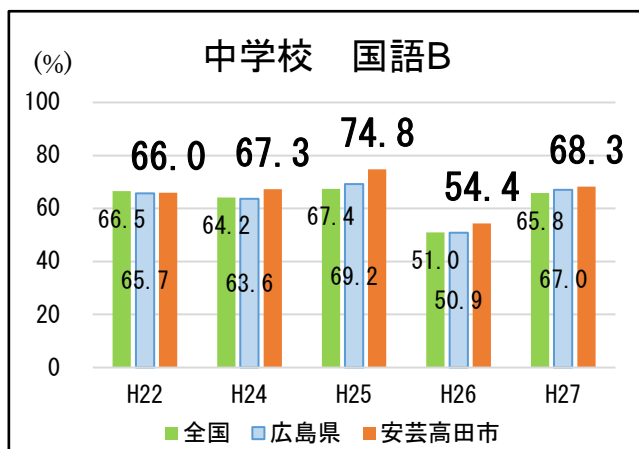
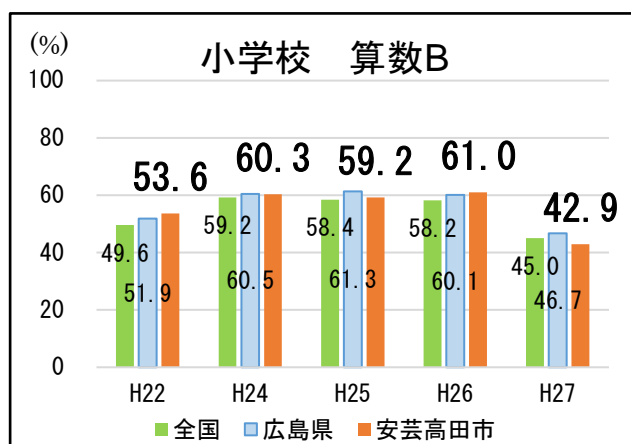
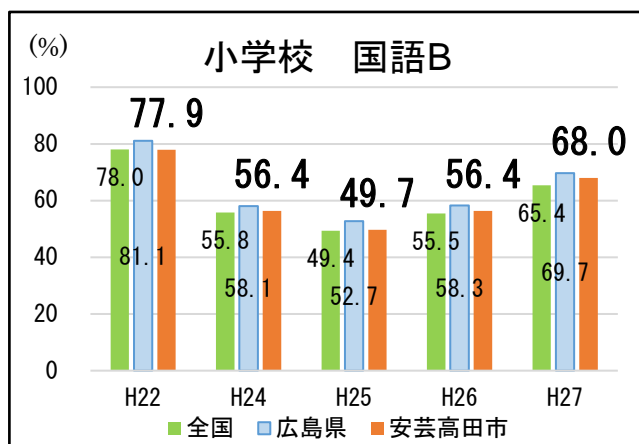


(2) 【目指す学力2】 習得した知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等

安芸高田市の児童生徒の【目指す学力2】については、全国学力・学習状況調査のB問題及び広島県「基礎・基本」定着状況調査のタイプⅡの結果において、中学校国語については、平均正答率や平均通過率が60%を超えている年度が多いことから、教科で習得した知識・技能を活用する力は、概ね定着しているといえる。小学校国語、小学校算数、中学校数学、中学校英語では、平均正答率や平均通過率が60%を超えている年度が少ないことから、教科で学習した知識・技能を活用する力に課題があるといえる。

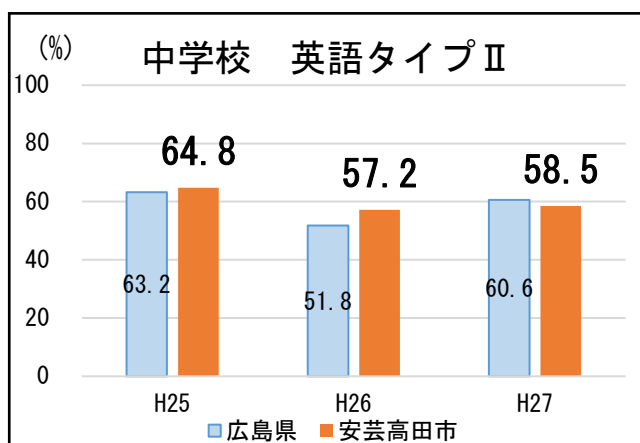
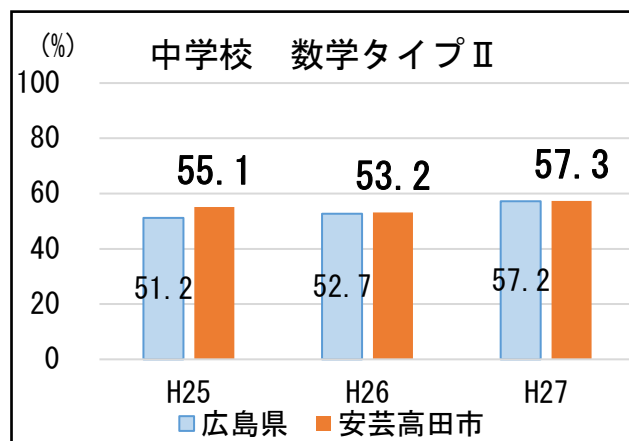
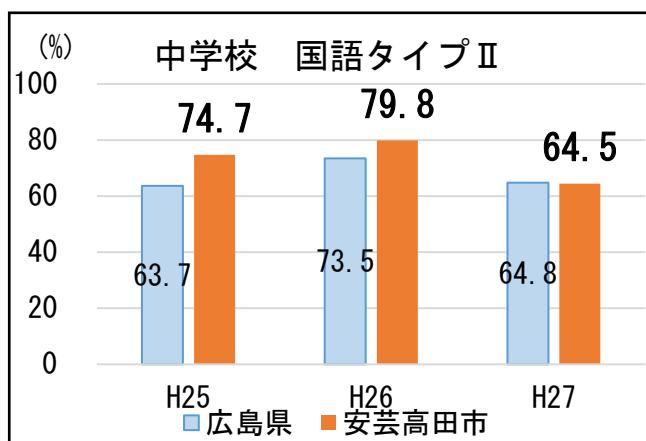
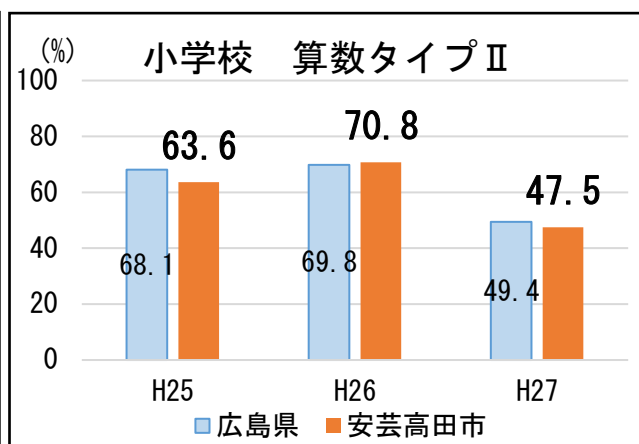
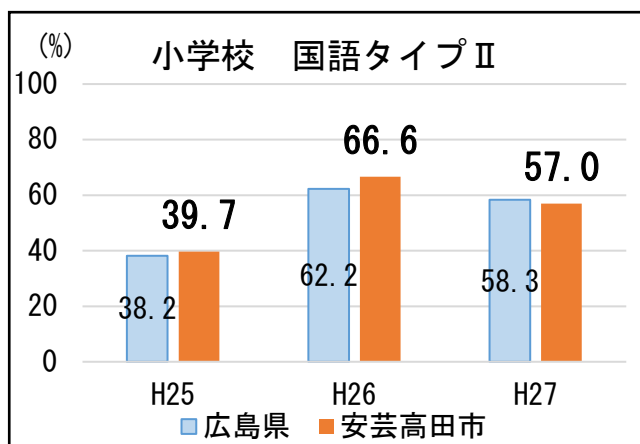
ア 全国学力・学習状況調査の結果推移

※B問題（主として「活用」に関する問題：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など）



イ 平成27年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果推移

※タイプⅡ（教科で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに係る内容 平成25年度から実施）



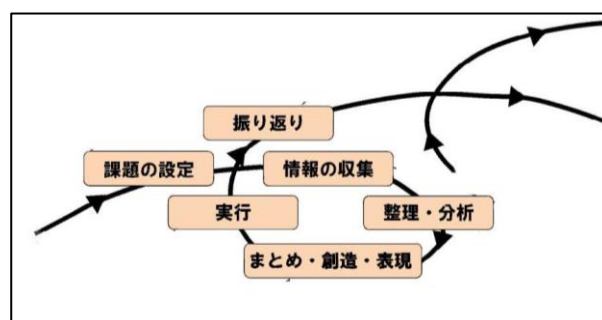
(3) 【目指す学力3】主体的に学習に取り組む態度

安芸高田市の児童生徒の【目指す学力3】については、広島県「基礎・基本」定着状況調査の質問紙結果から、学習習慣、学習動機、学習意欲に係る質問において、肯定的な回答をした割合が高い項目が多い。小中学校とも「将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています」が最も高く、学習に対して必要感を感じて取り組んでいる。しかし、小中学校とも、「学校の授業を予習するようにしています」が最も数値が低く、特に中学校は低い数値となっている。予習を行う学習習慣が身につけていないことに課題があるといえる。

また、課題発見・解決学習に係る質問において、県平均と比較すると数値が高いものが多い。しかし、中学校の数値については肯定的な回答の割合が60%以下のものが多く、探究的な活動が十分でないことが課題であるといえる。

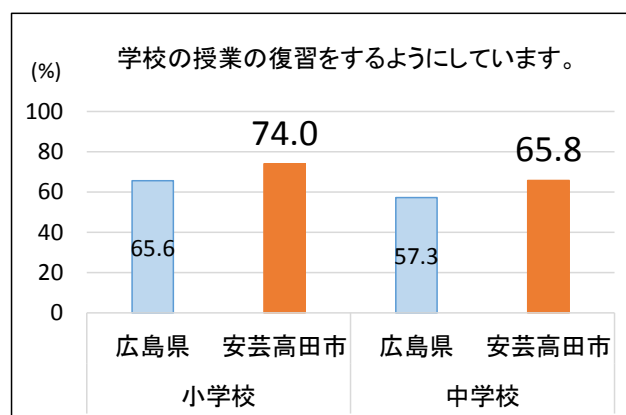
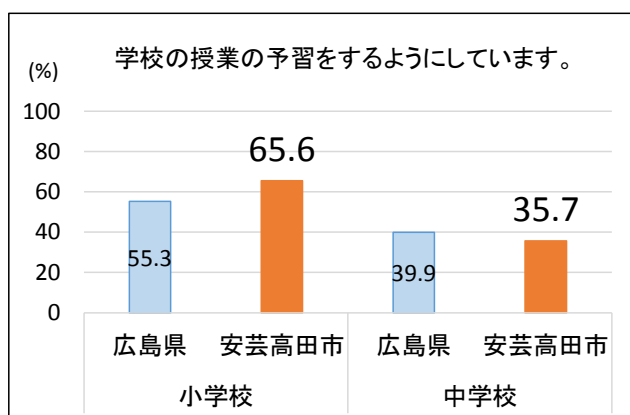
※課題発見・解決学習とは

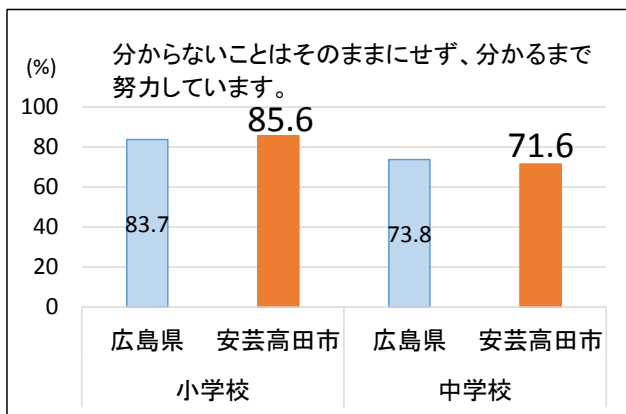
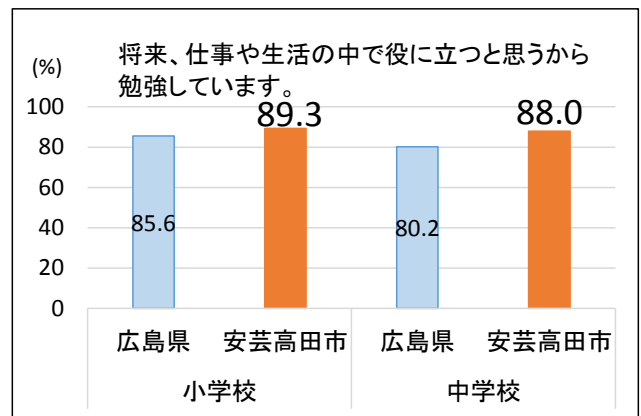
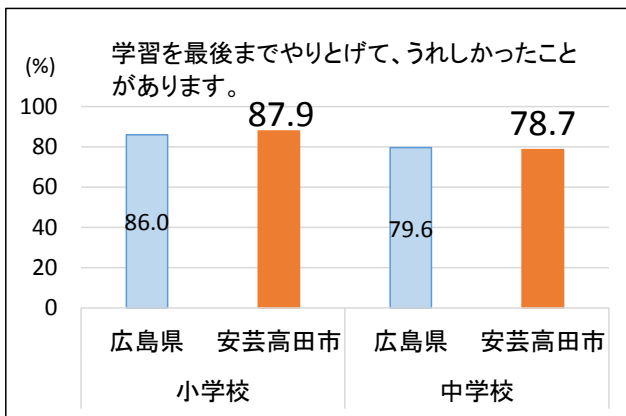
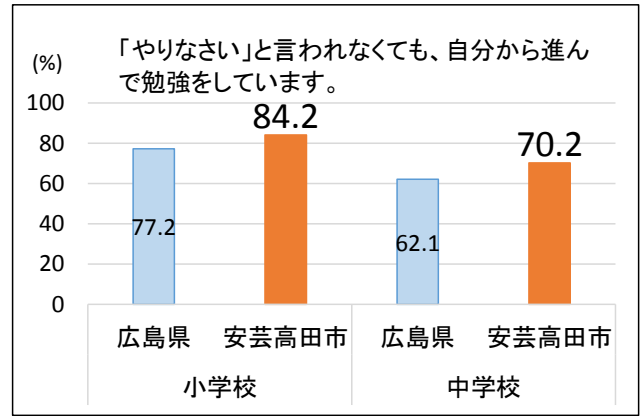
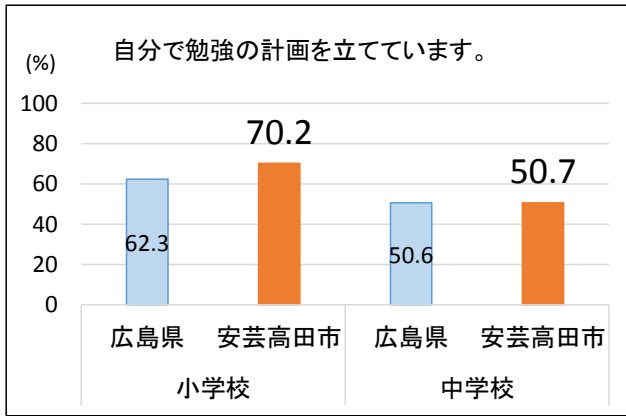
児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて、探究的な活動をしていく学習。その過程においては、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・創造・表現」、「実行」、「振り返り」などの活動が考えられる。



平成27年度広島県学力調査報告書より

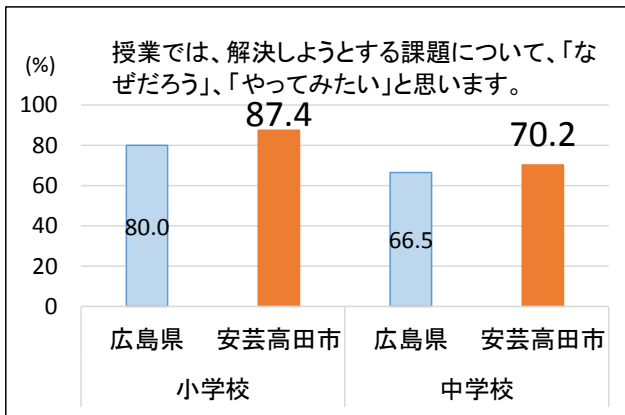
ア 平成27年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査結果 学習習慣・学習動機・学習意欲に係る質問における肯定的な回答の割合



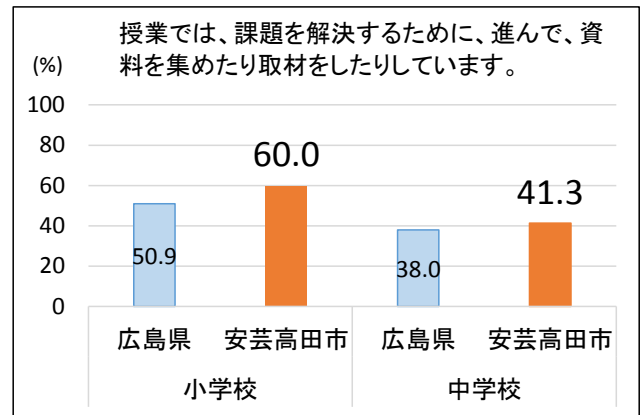


イ 平成27年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査結果
課題発見・解決学習に係る質問における肯定的な回答の割合

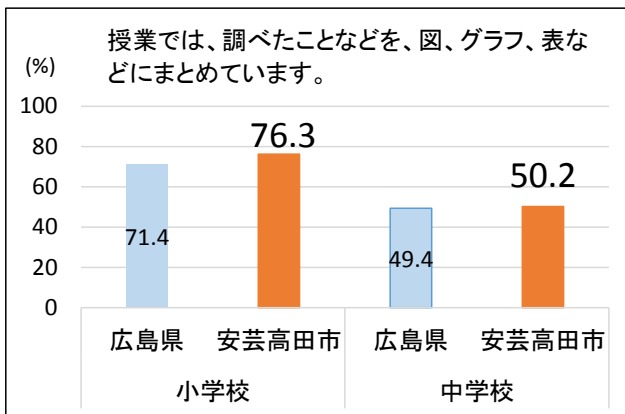
《課題の設定》



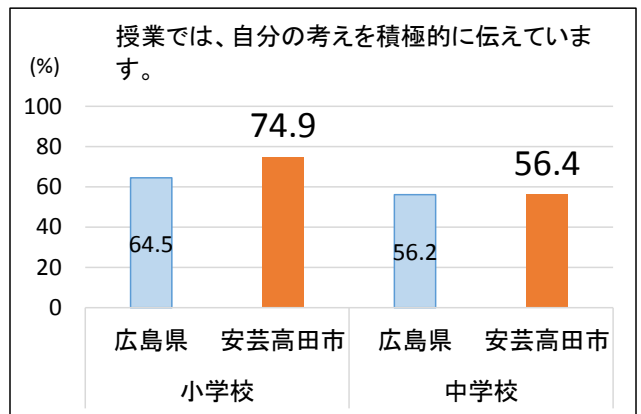
《情報の収集》



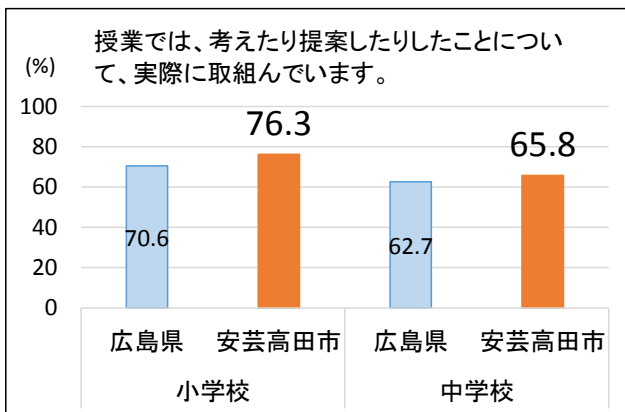
《整理・分析》



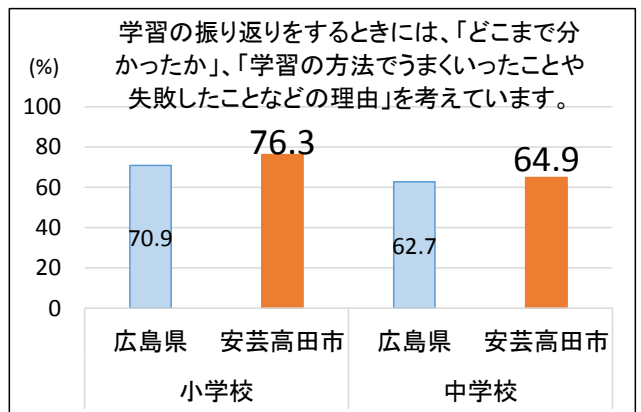
《まとめ・創造表現》



《実行》



《振り返り》

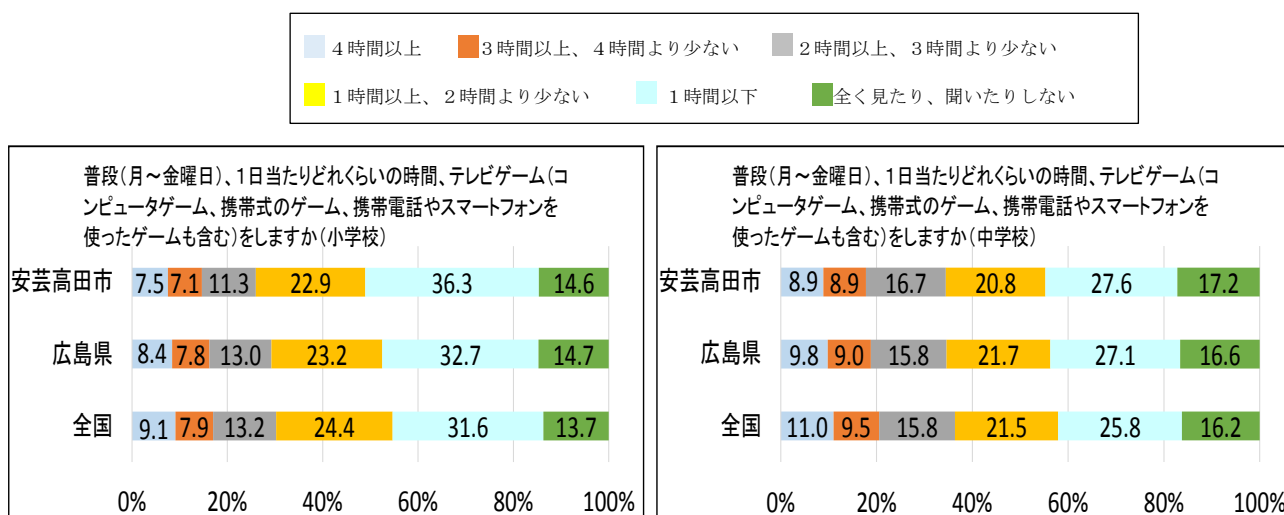


2 学力を支える生活等の現状と課題

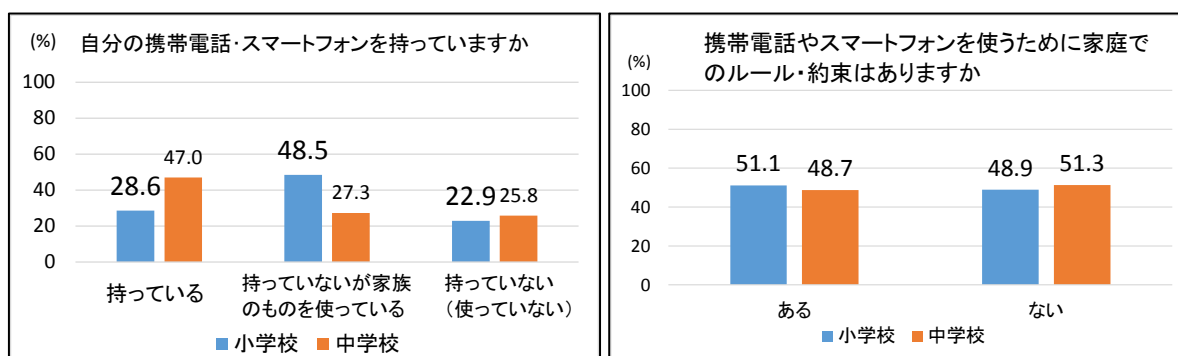
(1) 【生活習慣について】

全国学力・学習状況調査の結果から、安芸高田市の児童生徒は、朝食をとること、起床、就寝の時刻を決めることなどの生活習慣は、概ね定着しているといえる。また、平日1日当たりのゲームを行う時間については、1時間より少ないと回答した児童生徒が最も多いという状況になっている。しかし、2時間以上と回答した小学生は49%、中学生は55%であり、半数前後の児童生徒が1日当たり2時間以上、ゲームに時間を費やしている。

平成27年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果



安芸高田市の子供たちの携帯電話・スマートフォンの利用状況について



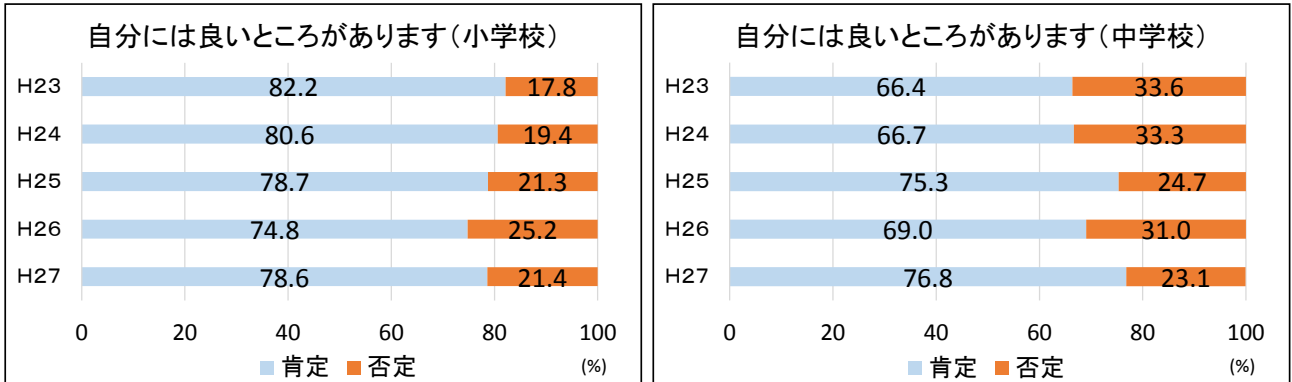
平成28年1月実施アンケート調査結果から(対象:小学校5・6年、中学校1・2・3年)

多くの子供たちが携帯電話やスマートフォンを持っているにも関わらず、家庭内でのルールが設定されているのは約半数です。家庭内でのルール作りについて取組を進める必要があります。

(2) 【自己肯定感について】

安芸高田市の児童生徒の自己肯定感については、広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果から、「自分には良いところがあります」の質問に対して、多くの児童生徒は肯定的な回答をしています。しかし、2～3割の児童生徒は否定的な回答をしている。

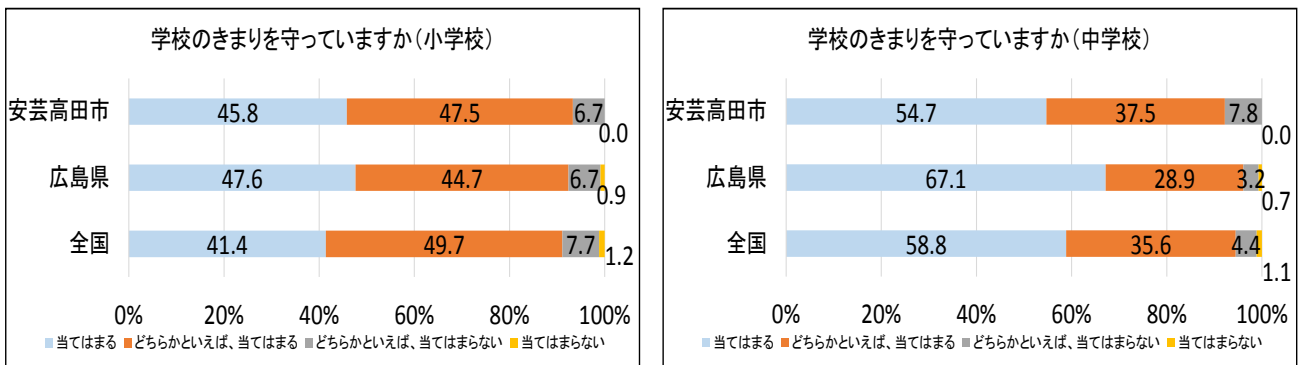
広島県「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査における自己肯定感に係る質問項目の推移



(3) 【規範意識について】

安芸高田市の児童生徒の規範意識については、平成27年度全国学力・学習状況調査結果から、90%以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。しかし、中学校においては、肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均、広島県平均を下回っている。

平成27年度全国学力・学習状況調査質問紙調査における規範意識に係る質問項目



第3章 今後取り組む施策

施策1 各種学力調査の活用

全国学力・学習状況調査、広島県「基礎・基本」定着状況調査、安芸高田市総合学力調査の結果を分析し、授業改善にいかしていく。

(1) 結果分析と児童生徒の学習実態の把握

- ア 通過率・正答率から
(平均通過率・平均正答率、60%以上の通過率・正答率、30%未満の通過率・正答率など)
- イ 誤答の分析から
- ウ 質問紙調査から

(2) 分析結果を基にした授業デザイン

- ア 児童生徒がつまずいているところはどこか。(特に30%未満の通過率の児童生徒のつまずきを把握)
- イ つけたい力を明確にする。
- ウ 「主体的な学び」となる学習展開を創造する。
- エ 個に応じた指導を行う。
- オ 児童生徒の実態等を交流するなど学校全体で授業づくりに取り組む。

(3) PDCAサイクルの確立

- ア 実態把握を行い、取組計画を作成する。
- イ 単元末テスト等で類似問題を行い、検証を行う。
- ウ 授業研究を行い、指導方法について検証を行う。
- エ 校内で検証結果を交流する場を設定し、学校として成果と課題を明確にする。
※PDCAサイクルとは…PLAN(計画)→DO(実践)→CHECK(評価)→ACTION(改善)というマネジメントサイクルの考え方を授業などに導入すること。

施策2 複数校の協働による授業づくりへの挑戦

(1) 小中連携を核とした授業研究の実施

安芸高田市では、小中連携を核とした授業研究を実施する。

ア 下図のモデル1を基本とし、中学校区を単位とした授業研究を行う。

イ 各校の実態に応じて、モデル2、モデル3のスタイルを取り入れて授業研究を実施する。

【モデル1】小中連携による授業づくり

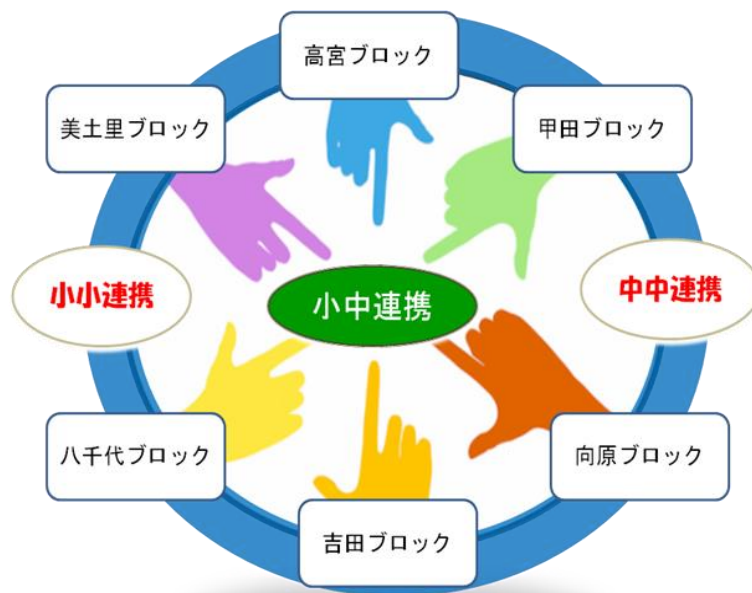
- ・中学校区を単位とした授業研究を行う

【モデル2】小小・中中連携による授業づくり

- ・研究主題及び重点研究教科を同じくする市内の学校が連携して授業研究を行う
- ・研究協議会へ参加し、学んだことを自校へ広げる

【モデル3】ネットワーク校を基にした 授業づくり

- ・研究主題を同じくする市外の学校と協働した授業研究を行う



『複数校の協働による授業づくり』における小中連携イメージ図

(2) 学習者の学びに視点を置いた、研究協議スタイルの確立

ア 授業研究では、子供の学びの事実を見取る。

ノートの記述、つぶやき、発言、行動、作品、ペアやグループでの対話、表情などから、その時間に子供がどのように学んでいたかを見取る。

イ 授業の中で、ねらい（めあて）が達成されていたかを見取る。そのことを通して、指導の工夫が適切であったかを考え、今後の指導に生かす。



出典：「授業研究ハンドブック」より
広島県立教育センター 平成26年3月

「子どもの事実を見取る」「子どもの活動を残す」という意識を持って自分の定められたポイントで子供の活動を観察していきます。ポイントについては事前に教職員に周知しておきます。

研究授業の際に…

- ・生徒のつぶやきを聞き取る。
- ・生徒の動きの現在を観る。
- ・先生の言葉がけに、生徒はどう変化したか。
- ・特に目立った生徒について→なぜ、目立ったのか。
→なぜ、目立つような動きをしたのか。
- ・個人活動では、〇〇だったが、グループ活動では△△だった。

出典：「中学校「荒れ」克服10の戦略」より
監修・著：京都大学 石井英真 平成27年5月



美土里中学校（「学びの变革」実践指定校）
校内授業研究で生徒の学びの姿を見取る指導者の様子



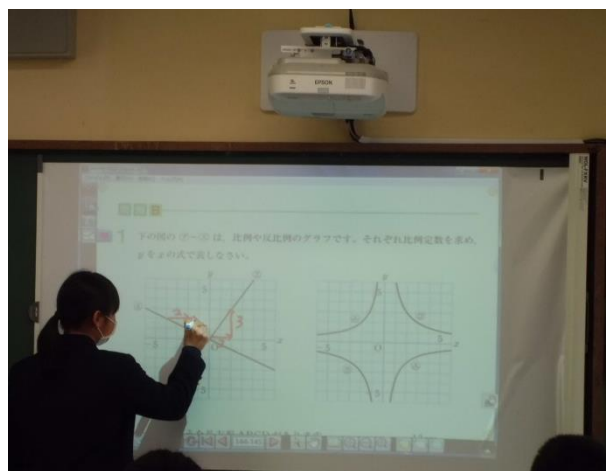
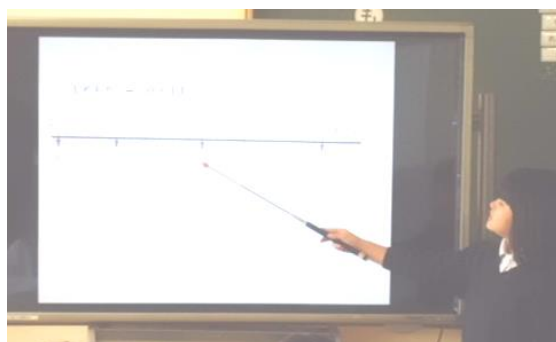
小田東小学校（「学びの变革」実践指定校）
校内授業研究で行われた研究協議の様子

施策3 ICTの活用

(1) ICT機器の整備

ア 平成27年度はモデル校において、ICT機器の整備を進める。

イ 平成28年度以降は、市内小中学校全ての通常の学級に常設のプロジェクト等の導入、市内小中学校特別支援学級の全児童にタブレット端末の導入を計画的に進める。



(2) ICTを活用した授業づくり

ア ICT支援員を配置し、ICTを活用した教育の推進及び教員のICT活用指導力向上のための支援を行う。

イ 次の視点で、ICTを活用した授業づくりに取り組む。

- どの場面でICTを活用するのか（単元や題材、または1時間の授業の中で）、だれが活用するのか（教師が活用するのか。児童生徒が活用するのか。）など、教科のねらいが達成できるよう事前に計画を立てる。
- 教材を提示するタイミングや見せ方を工夫する。
- ICTを活用して効果があったか振り返り、今後の授業づくりにいかす。

参考資料：「教育の情報化に関する手引」（文部科学省 平成22年10月29日）

施策4 研修の充実

(1) 安芸高田市教育委員会主催研修の充実

ア 研修の視点

- ・ 授業を進める上で必要な知識や技能を研修し、その能力の向上を図る。
- ・ 次代を担う人材を育成する。

イ 研修の具体

- ・ 研究主任研修会
- ・ 学習補助員研修会
- ・ 理科授業改善研修会
- ・ 外国語活動研修会
- ・ 道徳教育研修会
- ・ 特別支援教育研修会
- ・ 教育介助員研修会
- ・ 生徒指導主事研修会
- ・ その他必要に応じた研修会

(2) 授業研究、授業づくりを中心とした研修会の充実

ア 授業研究を中心とした研修会を実施し、授業改善、授業づくりへつながる研修を行う。

イ 授業研究を実施した場合には、施策2(2)で示した研究協議のスタイルで研修を行う。

(3) 安芸高田教育推進会との連携

ア 教育研究団体である安芸高田教育推進会と連携を図りながら、授業改善を進める。

イ 必要に応じて、合同開催とする研修会を実施する。

第4章 授業づくり

1 安芸高田市授業づくりスローガン

安芸高田市の教職員は、「安芸高田市授業づくりスローガン」を掲げ、授業づくりに取り組む。学校では、このスローガンのもと、より具体的な取組を設定し、実践していく。

あ **愛情のある授業をつくります**
教育活動すべての土台は、子供に対する深い愛情

き **基礎・基本を習得し、
活用する授業をつくります**
活用までを意識した授業づくり

た **対話し、学び合える集団を
育てる授業をつくります**
子供同士の対話、子供と教師の対話、
課題との対話で深まる学び合い

か **考えが深まる
授業をつくります**
疑問や発見は宝物 思考を深める問いづくり

た **互いに見合い、学び合って、
授業をつくります**
オール安芸高田研究協議スタイルでチャレンジ！！



愛情のある授業をつくります

～教育活動すべての土台は、子供に対する深い愛情～

教師の心得

- 1 子供の学びをしっかりと見取る。子供の声に耳を傾ける。
- 2 子供を褒める。認める。勇気づける。励ます。
- 3 子供の力を信じる。

愛情のある言葉かけ

○結果だけでなく、姿勢や過程を認める言葉かけ

- ・一生懸命やっていたね。
- ・前よりも～なったね。
- ・あなたが～していて、私も嬉しかったよ。など

○失敗を受け入れる言葉かけ

- ・残念そうだね。
- ・～まではできているよ。
- ・次はどうしたらいいだろう。

○自信を育てる言葉かけ

- ・よく考えたね。
- ・あと2～3行付け加えるといいね。
- ・なるほど。いいね。

愛情のある言葉かけポイント

- ・子供のプラス面を見ること。
- ・その時、その場で、具体的に！
- ・言葉＋表情（笑顔）や態度（握手、バンザイなど）を加える。



基礎・基本を習得し、活用する授業をつくります

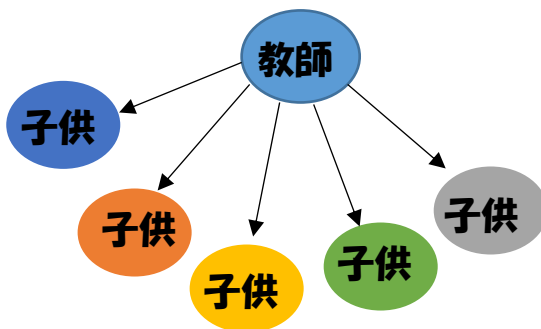
～活用までを意識した授業づくり～

教師の心得

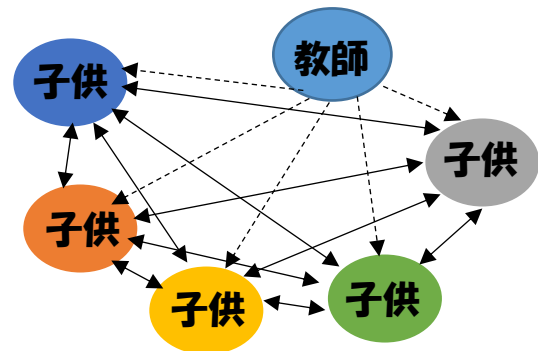
- 1 「教師主導の授業」→「学習者中心の授業」に転換する。
- 2 授業の中で、目的のある反復の場面を設定する。
- 3 何のために、どんな知識や技能を、どのように活用させるのか、具体的なイメージをもつ。

授業イメージの転換！

教師主導の授業



学習者中心の授業



・教師が正しい知識や技能を授ける。

教師の役割

・子供同士の情報交流を活性化し促進する。

・受け身になり、自分で考え判断することがなくなってくる。

予測される子供の姿

・主体的で、自分で考え判断ができるようになってくる。

先生、次は何をしたらいいですか

先生、次はどうするの

子供から発せられる言葉

先生、もっと〇〇したいです

次はこうしたらいいよ



対話し、学び合える集団を育てる授業をつくります

～子供同士の対話、子供と教師の対話、課題との対話で深まる学び合い～

教師の心得

- 1 授業の中で、全員の子供が話す場面（ペア学習やグループ学習など）を作る。
- 2 つけたい力を明確にし、その力をつけるためにペア学習やグループ学習を行う。
（目的意識を明確にしたペア学習やグループ学習の対話）
- 3 子供の意見をつなぐ支援を行う。

学び合える集団

【授業前に教師が行うこと】

- つけたい力を明確にする。
- どの場面でどんなことを対話させるのかを、子供の実態、教材、つけたい力を総合して考える。

【授業中に教師が行うこと】

- 対話のできていないペアやグループへ関わる。（対話のできているペアやグループには口を挟まない）
- 困っている子供には、「隣の人に聴いてごらん」と促す。
（「教え合う」ではなく「学び合う」姿勢を大切にする。）
- 子供の意見をつなげる言葉かけを行う。
例・「〇〇さんの意見を自分の言葉でもう1回言ってごらん」
• 「〇〇くんの意見をどう思う？」
• 「〇〇さんの言いたいことは何？」 など
- ペアやグループで答えを一つにすることを求めない。
- ペアやグループで対話した内容をもとに、個人で考える時間を保証する。

【授業後に教師が行うこと】

- 子供につけたい力がついたか、子供の学びの事実から、自分のかかわりや手立て、授業の流れなどを振り返る。

【日常的に教師が行うこと】

- 「聴く」ことを大切にする。
- 聴いていない様子が見られた時には、授業を止めてでも聴くことを鍛える。
- 「分からない」「教えて」と隣の人に訪ねられる関係をつくる。
- 聴いてよかった、話してよかったと思えるよう、価値付けをする。
- 学び合いができる座席を工夫する。（グループなら4人まで。男女混合など）

ペア学習やグループ学習で雑談が始まってしまったら…

課題が簡単すぎる。子供が夢中になれる課題の提示をしよう！

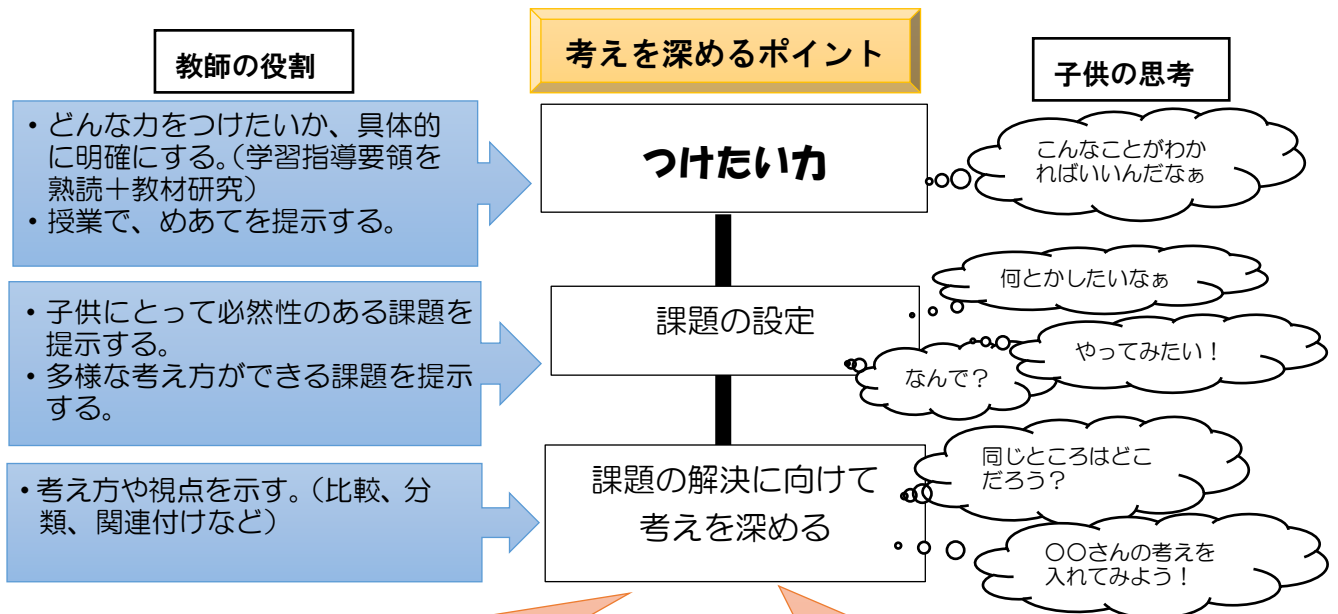


考えが深まる授業をつくります

～疑問や発見は宝物 思考を深める問いづくり～

教師の心得

- 1 子供が主体的に学べる（何でだろう、やってみたいなど）課題を吟味する。
- 2 比較、分類、関連付けなど、考え方や視点を明確にする。
- 3 子供の学びの状況を把握し、実態に応じた授業展開を行う。



【教師が事前に準備しておくべきこと】

- 目指す子供の姿を具体的にする。
- 子供の実態や特性を把握し、子供の考えを予想しておく。つまりきも予想しておく。
- 必要な教材・教具の準備をする。

考えを深める教師の『声』とは？

- 大きすぎない声で考えを深める。
- 発問の後の間を大切にす。
- 子供の意見をリボイスしない。

【教師が授業中にやるべきこと】

- 子供に考えさせる（委ねる）姿勢をもつ。また、子供同士で解決できるよう、考えをつなげる。
 - 子供の実態を即座に把握し、つまりきや進度に応じて対応する。
- ※困ったら・・・「つきたいか」に立ち戻り必要な指導や支援等を行う。



互いに見合い、学び合って、授業をつくります

～オール安芸高田研究協議スタイルでチャレンジ！！～

教師の心得

- 1 互いに授業を見合い、今以上に授業の質を高めようとする向上心をもつ。
- 2 同僚性を発揮し、互いに学び合う教師集団となる。
- 3 中学校区ごとに小中連携を行い、指導の系統性や情報の共有を図る。

授業で伸びる

キーワード

『**授業をひらく 授業を見る 授業を語る**』

『授業で伸びる』心得

- 一 自分の授業を同僚の先生に月に一回以上は見てもらおう。
- 一 同僚の先生の授業を月に一回以上は見よう。
- 一 授業について、職員室で同僚の先生と毎日話をしよう。
- 一 同じ学校で、授業について困ったら相談できる先生をつくらう。
- 一 授業について困っている同僚がいたら、相談される先生になろう。

2 授業デザイン

(1) 授業モデル

児童生徒の学習の定着をはかり、考えを深めるために、1時間の授業を、「見通しをもつ場面」「考えを深める場面」「学習を振り返る場面」に設定し、授業モデル（例）を参考に授業をデザインしていく。

授業モデル（例）

場面	指導の留意点	期待される子供の反応
見通しをもつ場面	<ul style="list-style-type: none"> その1時間で学習する内容や、何が分かればよいか、見通しを持たせる。 学習課題に対し課題意識をもたせる。 既習事項を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日は、こんなことができたらいいな。 どうやったらできるんだろう。考えてみよう。やってみよう。おもしろそう。 この前に習ったことを使ったらできそうだな。
考えを深める場面	<ul style="list-style-type: none"> 理解した学習内容をもとに、自分の考えをもつ。 ペアで自分の考えを出し合ったり、聴き合ったりする。 グループ（4人まで）で、他の人の考えを知る。 他の人の考えと比較したり、関連させたりしながら、共通点や相違点などを見つける。 他の人の意見を聞いて、自分の考えを構成する。 適応題や発展的な課題を解く。 めあてに応じたまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板を見たら、少しわかってきたな。 友達に聞きたいな。 自信ができた。自分の考えを言いたいな。 他の人の考えも聴きたいな。 友達と自分の考えが違っている理由がわかった。 グループの人の考えを入れたらわかりやすくなりそうだな。 このやり方を使って試してみよう。
学習を振り返る場面	<ul style="list-style-type: none"> わかったこと、わからなかったことを記述する。 学習方法について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日のめあての〇〇については、□□の～な考えを使ったら求めることができる。 〇〇を使えばいいことはわかったが答えは違っていた。なぜ違ってしまったのか知りたい。 最初わからなかったけど、ペアで話し合いをしていたら、答えを出すことができた。 ～さんの考えを聞いたら〇〇を使えばいいことがわかった。

時間内に授業を終える！

(2) 生徒指導の三機能を基盤にした授業

(1) で示した授業モデルを基本の流れとし、さらに授業の中へ生徒指導の三機能を取り入れていく。生徒指導の三機能を基盤にした授業を行うことにより、自己指導能力を育てていく。

生徒指導の三機能を基盤にした授業づくり (例)

	ポイント	生徒指導の三機能を生かす手立て	期待される子供の反応
自己決定の場を与える	子供が、周りの人の主体性を大切にしながら、自分の行動をしっかり考えて判断する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えがもてるように、興味をもたせる工夫をする。 自分の考えをもてるよう視点を示す。 自分で選択する場面を作る。 一人で考える時間を十分に確保する。 自分の考えを他の人に示す場を作る。(ペア学習やグループ学習等) 	<ul style="list-style-type: none"> どちらがいいかな。理由も考えよう。 さっきの説明の考えを使ったらできそうだな。 ペアの人の考えを書き加えてみよう。
自己存在感を与える	子供同士の関わりの中で、自分は価値のある存在であることを実感する。	<ul style="list-style-type: none"> ネームプレートを活用する。 誤答も大事にして、取り上げたり板書したりする。 全員が応えられるような発問、助言を工夫する。 机間指導で、どの場面でどの子供の意見をいかせるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をとりあげてもらってうれしいな。 これならできそうだな。 間違った意見を言っても大丈夫だな。 自分も授業に参加できている。
共感的人間関係を育む	お互いに尊敬しあう態度で、ありのままに自分を語り、共感的に理解し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を受け入れて肯定的な言葉かけ等を行う。 たどたどしい発言でも、言い終わるまで待つ。 友達の意見にうなずいたり拍手をしたりする雰囲気をつくる。 子供同士の関わりを作る。 子供の良さを共有できるように全体に広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ほめてもらった。うれしいな。次もやってみよう。 うまく意見が言えなかったけど、ずっと一生懸命きいてもらった。 また発言したいな。 友達のよさがわかった。

(3) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業とは、すべての子供にとって、楽しく「わかる・できる」ことを目指すことを示している。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた具体の取組（例）

具体的な取組	留意点
教室・学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none">・黒板に注目しやすい工夫（ unnecessaryな刺激は取り除く）・マークや色チョーク、文字の大きさなどの工夫 など
授業構成の工夫	<ul style="list-style-type: none">・1時間の流れの予告・めあて、目標を明確にする・授業の型や学習形態を一定にする など
指示・説明・発問の工夫	<ul style="list-style-type: none">・具体的にわかりやすく・順番に・短い言葉で・肯定的な表現 など
複数教材の用意	<ul style="list-style-type: none">・イラストや写真、ICT等の視覚教材の用意 など
認め合う学習集団づくり	<ul style="list-style-type: none">・タイムリーな評価と適切な評価・助言は具体的で肯定的に・注意は具体的で短く など

ユニバーサルデザインとは・・・

アメリカのロナウド・メイ博士により、1980年代に提唱されたもの。「高齢者や身体障害者という特定の人限定せず、できる限りすべての人が利用可能であるように配慮しながら製品・建物・環境をデザインすることであり、デザインの変更や特別仕様のデザインが必要なものであってはならない」と定義されている。

授業におけるユニバーサルデザインとは・・・

学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもが楽しく『わかる・できる』ことをめざし、教科における工夫や、様々な子どもへの配慮、個に特化した配慮を駆使して行う、通常の学級における授業のデザイン。

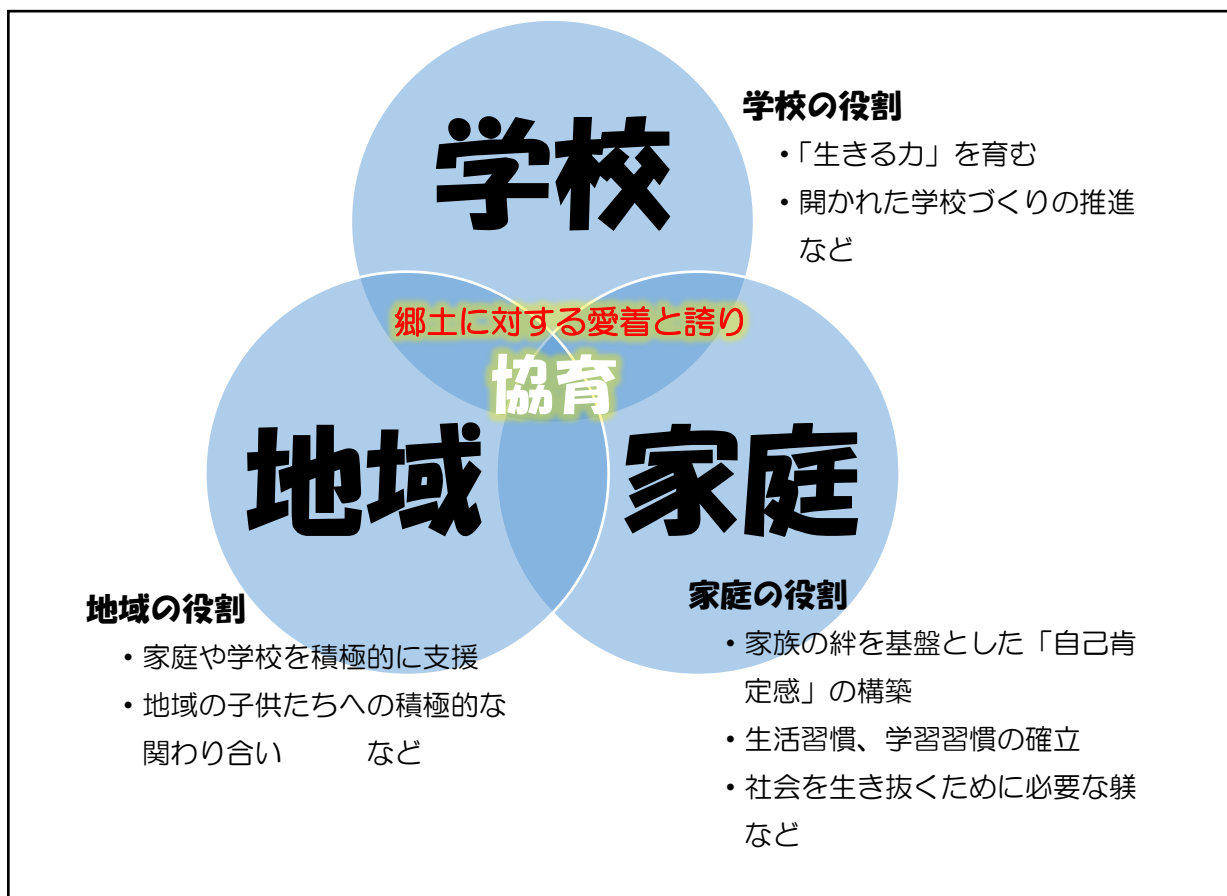
教師の話も

ユニバーサルデザインにしよう！

授業での教師の話しすぎは、発達障害の子供にとっては情報過多になることがある。子供の実態を見ながら、教師が話す量を工夫していくことが大切である。

第5章 家庭・地域・学校の連携による協育

安芸高田市では、家庭・地域・学校が連携し、すべての大人が積極的に子供に関わり、子供を慈しみ育てる地域ぐるみの『協育』を進める。そして、安芸高田市の子供たちの郷土に対する愛着と誇りを醸成する。



安芸高田市郷土理解学習副読本

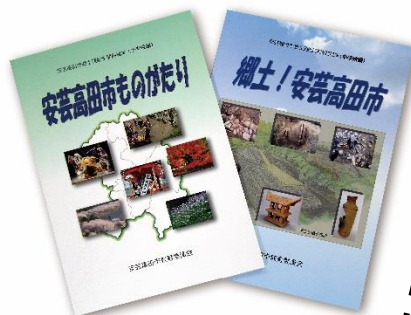
「安芸高田市ものがたり（小学校編）」「郷土！安芸高田市（中学校編）」

安芸高田市では、安芸高田市の文化や歴史などについて、児童生徒や保護者、地域に広く知ってもらうため、副読本を作成した。

現在、学校では、社会科を中心に国語科や道徳の時間でも使用している。

自分たちの郷土である安芸高田市を知ることは、安芸高田市の文化や歴史を尊重する態度が身に付き、郷土に自信と誇りをもつことにつながる。

学校は、副読本の積極的な活用を図っていく。



1 家庭の役割

- 家族の絆を基盤とした「自己肯定感」の構築
- 生活習慣、学習習慣の確立
- 社会を生き抜くために必要な躰（社会的なマナーやルール、他者への思いやりなど）

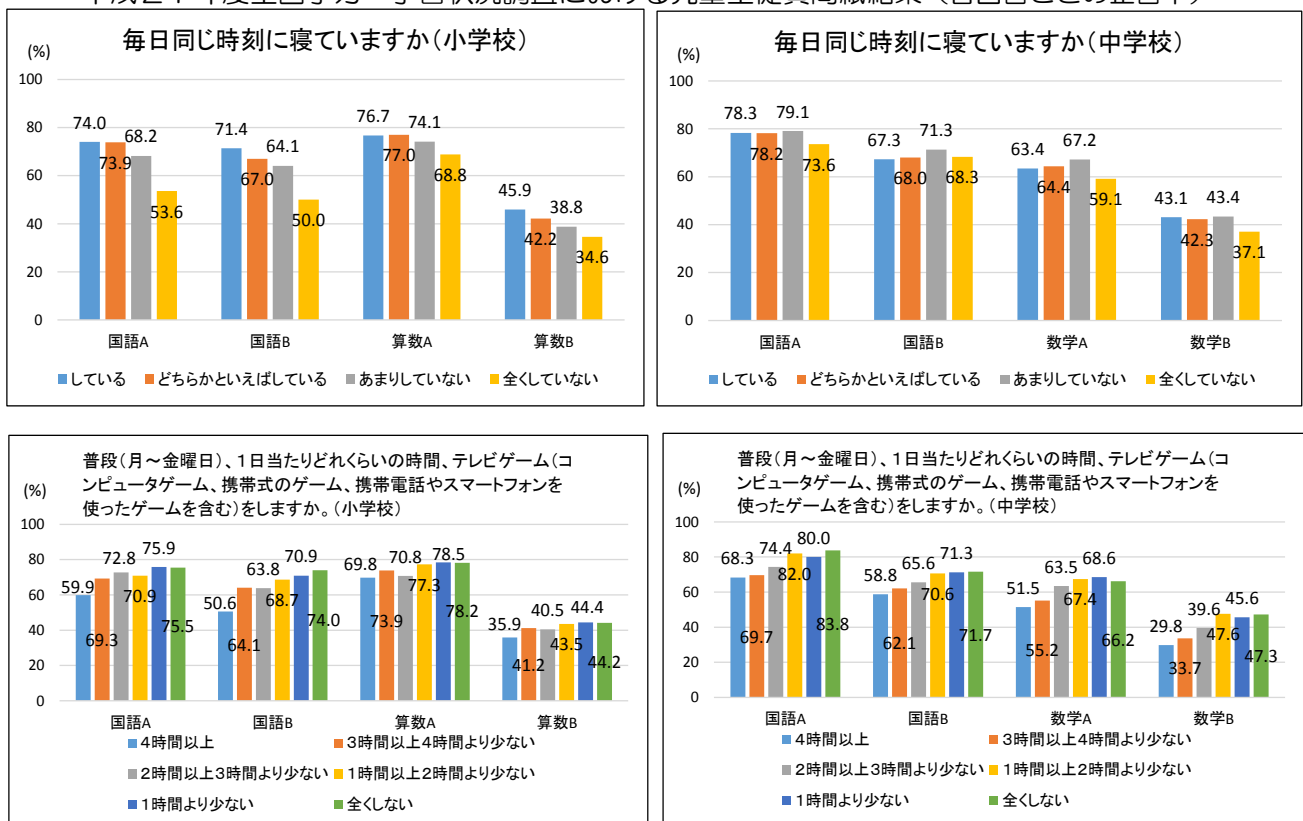
全国学力・学習状況調査や広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果から、安芸高田市の児童生徒は、朝食をとること、起床、就寝の時刻を決めることなどの生活習慣は、概ね定着しているといえる。また、平日1日当たりゲームを行う時間については、1時間より少ないと回答した児童生徒が最も多いという状況になっている。しかし、2時間以上と回答した小学生は49%、中学生は55%であり、半数前後の児童生徒が1日当たり2時間以上、ゲームに時間を費やしている。

生活習慣と学力との相関関係をみると、起床や就寝の時刻を決めていないと回答した児童生徒の方が、正答率が低いという結果が出ている。また、平日1日当たりゲームを行う時間が4時間以上と回答した児童生徒の方が、正答率が低いという結果が出ている。

これらのことから、起床、就寝の時刻を決めること、ゲームを行う時間を決めることなど、家庭内でルール等を決める必要があるといえる。

安芸高田市の子供たちがこれからの社会を生き抜くため、社会的なマナーやルール、他者への思いやりなどの躰をしていくことも必要なことであるといえる。

平成27年度全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙結果（各回答ごとの正答率）



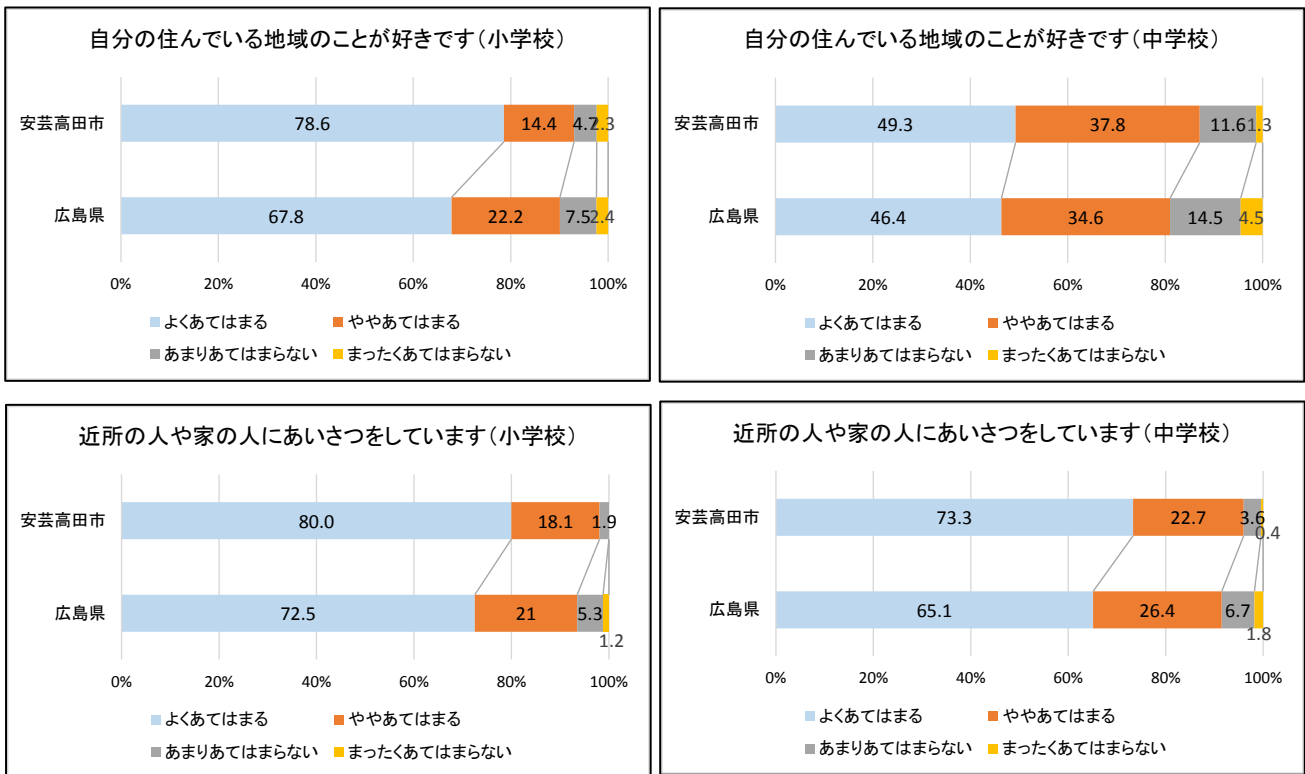
2 地域の役割

- 家庭や学校を積極的に支援
- 地域の子供たちへの積極的な関わり合い

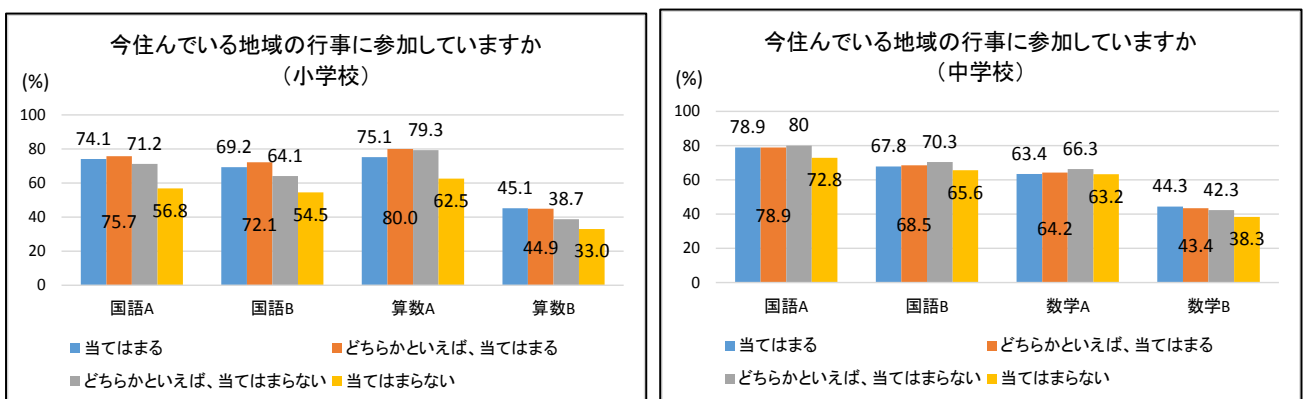
安芸高田市の児童生徒の地域との関わりについては、全国学力・学習状況調査や広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果から、自分の住んでいる地域が好きであると感じている児童生徒の割合が高い。また、地域や子供会の行事に参加する割合、近所の人や家の人にあいさつする割合も高いことから、このような関わりが地域を好意的に感じている要因であると考えられる。また、地域の行事に参加について「当てはまらない」と回答した児童生徒の方が、正答率が低いという結果が出ている。

こうした安芸高田市の強みを生かし、これからも地域と子供たちが積極的な関わりを進めていく必要がある。

(1) 平成27年度広島県「基礎・基本」定着状況調査における児童生徒質問紙結果



(2) 平成27年度全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙結果 (各回答ごとの正答率)

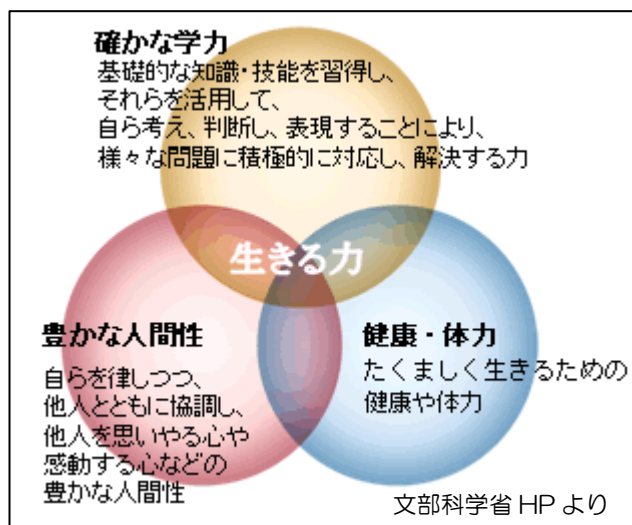


3 学校の役割

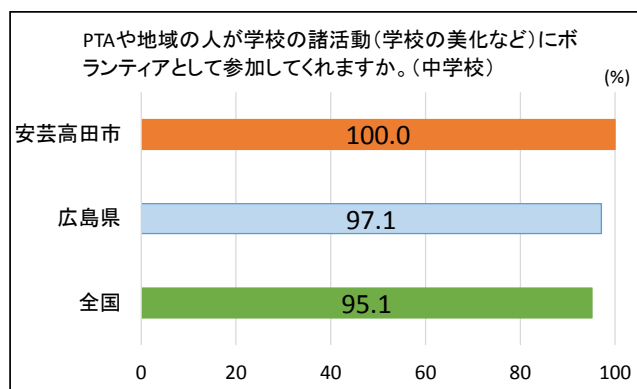
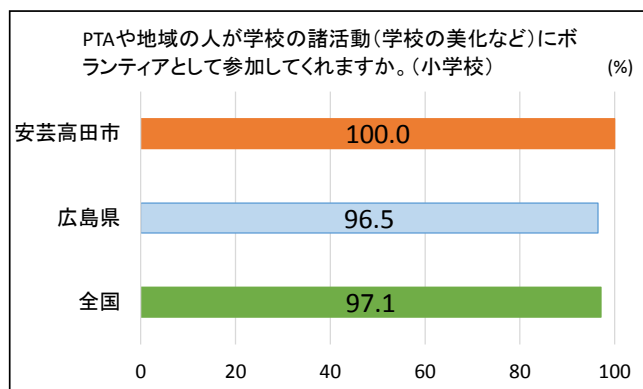
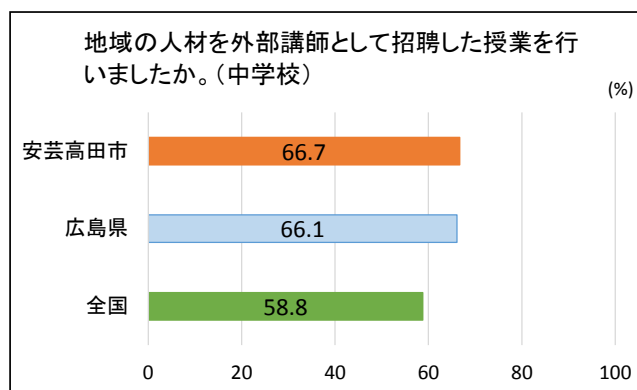
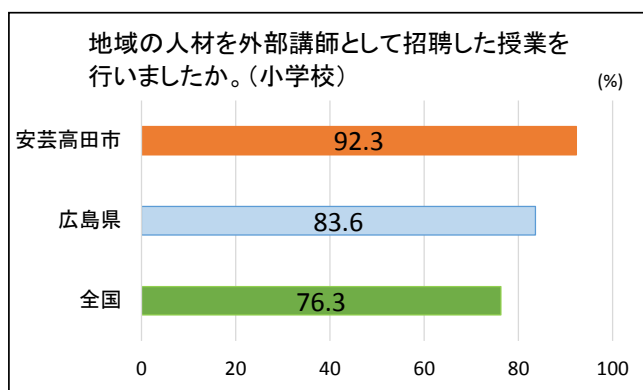
- 「生きる力」を育む
- 開かれた学校づくりの推進

学校では、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てていくことが求められている。

また、家庭や地域と積極的に関わる場を設定するなどして、開かれた学校づくりを進める。家庭や地域と連携し、児童生徒が郷土に対する愛着と誇りをもてるよう、『協育』していく必要がある。



平成27年度全国学力・学習状況調査における学校質問紙結果における肯定的な回答の割合



参考文献

- 『平成27年度広島県教育資料』広島県教育委員会
- 『平成26年度広島県学力調査報告書』広島県教育委員会
- 『授業研究ハンドブック』（平成26年）広島県立教育センター
- 『あきたのそこちからー授業の基礎・基本ー』（2011年）秋田県総合教育センター
- 『大阪の授業STANDARD』（平成24年）大阪府教育センター
- 『校内研究の充実3～「集団づくり」と「授業づくり」7つの視点～』
(平成26年)宮城県大河原教育事務所
- 『生徒指導の機能を生かした授業づくりの手引き』岩手県立総合教育センター
- 『徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン』徳島県教育委員会
- 『横浜市子ども学力向上プログラム』（平成22年）横浜市教育委員会
- 『教育の情報化に関する手引』（平成22年）文部科学省
- 『教育ジャーナル2015 7月号』（2015年）学研
- 『中学校における対話と協同』（2011年）佐藤雅彰 佐藤学 ぎょうせい
- 『子どもも教師も元気が出る授業づくりの実践ライブ』（2009年）佐藤暁 学研
- 『教える空間から学ぶ合う場へ』（2012年）牧田秀昭 秋田喜代美 東洋館出版社
- 『授業を磨く』（2015年）田村学 東洋館出版社
- 『中学校「荒れ」克服10の戦略』（2015年）監修・著 石井英真 学事出版
- 『変わる学力変える授業』（2015年）高木展郎 三省堂
- 『新教育課程型授業を考える』（平成28年）ぎょうせい

安芸高田市教育委員会学校教育課

〒731-0592

広島県安芸高田市吉田町吉田761番地

TEL：(0826)42-5628

FAX：(0826)42-4396

HP アドレス <http://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/kyouiku/>

メールアドレス gakkohkyohiku@city.akitakata.lg.jp